

ALLEN&HEATH

avantis

スタートガイド

Avantis

① 開始する前に、www.allen-heath.com で最新の Avantis フォームウェアとドキュメントを確認してください。

Avantis スタートガイド

Copyright © 2019 Allen & Heath. All rights reserved.

ALLEN&HEATH

Allen & Heath Limited, Kernick Industrial Estate, Penryn, Cornwall, TR10 9LU, UK

www.allen-heath.com

重要 - 開始前にお読みください

安全について

開始する前に、付属の安全シートに記載されている「重要：安全上の注意」をお読みください。ユーザー、オペレーター、技術スタッフ、パフォーマーの安全のために、すべての指示に従い、シートと本体パネルに印刷されているすべての警告に注意してください。

システムオペレーティングファームウェア

Avantis の機能は、ファームウェア (オペレーティングソフトウェア) によって決まります。ファームウェアは、定期的に新機能や、改良が加えられます。

① Avantisファームウェアの最新バージョンについては www.allen-heath.com を確認してください。

ソフトウェア使用許諾契約

Allen & Heath 製品とそのソフトウェアを使用することにより、お客様は使用許諾契約書 (EULA : End User Licence Agreement) の条項に同意したことになります。そのコピーは www.allen-heath.com/legal にも保持されます。お客様は EULA の条項に従い、ソフトウェアをインストール、コピー、または使用することに同意されることになります。

追加情報

詳細情報、ナレッジベース、テクニカルサポートについては、Allen & Heath の Web サイトをご参照ください。Avantis のセットアップとミキシング機能の詳細は、www.allen-heath.com からダウンロードできる Avantis ファームウェアリファレンスガイドを参照してください。

① 本スタートガイドの最新バージョンも確認することをお勧めします。

Allen & Heath Digital Community に参加して、他の Avantis ユーザーと知識や情報を共有することができます。

一般注意事項

- 液体または粉塵によるダメージから機器を保護してください。長期間使用しないときは、ミキサーにカバーをかけます。
- 機器が氷点下の温度で保管されている場合は、会場で使用する前に通常の動作温度に達するまで時間をおいてください。推奨動作温度は 0 ~ 40°C です。
- 極端な高温および直射日光の当たる場所での使用は避けてください。ユニットの下部の換気スロットとファンがさえぎられないこと、および機器の周囲に十分な空気の流れがあることを確認してください。
- クリーニングには柔らかいブラシやリントフリー布をお使いください。化学薬品、研磨剤、溶剤は使用しないでください。フェーダーに潤滑剤や接点クリーナーを使用しないでください。
- サービスは、Allen & Heath 代理店で実施することをお勧めします。最寄りの代理店の連絡先は、Allen & Heath の Web サイトで確認できます。Allen & Heath は、無資格者によるメンテナンス、修理、または改造によって生じた損害に対する責任は負いません。
- コントローラーや表面の損傷を防ぐため、サーフェス上に重い物を置いたり、鋭い物で表面やタッチスクリーンをこすったり、乱暴な取り扱いや振動は避けてください。

製品のご登録

www.allen-heath.com/register で製品をオンライン登録いただけます。

同梱品

以下を確認してください。

- Avantis デジタルミキシングコンソール
- スタートガイド AP11558
- 安全シート
- IEC 電源ケーブル

目次

重要 - 開始前にお読みください	3
安全について	3
システムオペレーティングファームウェア	3
ソフトウェア使用許諾契約	3
追加情報	3
一般注意事項	3
製品のご登録	3
同梱品	4
目次	4
1. イントロダクション	5
2. 接続と電源オン	6
2.1 電源オン	6
2.2 タッチフェーダー キャリブレーション	6
2.3 Show テンプレートのリコール	6
2.4 エキスパンダー接続	6
2.5 電源オフ	6
3. リアパネル	7
4. フロントパネル	8
5. トップパネル	9
5.1 フェーダーストリップ	10
5.2 スクリーン	11
6. Mix ペーシック	12
6.1 メインミックス 操作	12
6.2 センド操作 - マスターミックスモード	13
6.3 センド操作 - チャンネルミックスモード	13
6.4 チャンネルアサイン - Mix、Group、DCA	14
6.5 センド操作の切替え - フェーダー/ロータリー	14
6.6 フェーダー プリ/ポスト センド の設定	14
7. 寸法図	15
8. フライトケース 情報	16
9. 仕様	17

1. イントロダクション

64チャンネル96kHzデジタルミキシングコンソール Avantis は、パワフルなライブサウンドソリューションです。デュアル15.6 インチフルHDタッチスクリーンにより容易にアクセスできる包括的なルーティングおよびプロセッシング機能と、超低レイテンシーを実現した高品質なサウンドを提供します。

DEEP プロセッシングに対応しており、レイテンシーを増やすことなく、追加のハードウェアを必要としないワールドクラスのハードウェアエミュレーションの使用を可能にします。詳細については、allen-heath.com/avantis をご参照ください。

Slink ポートは、GX、DX、AB、AR、の各リモート I/O エキスパンダー と DX Hub リモートハブにプラグアンドプレイ操作を提供します。また、Slink は、他の Avantis、または dLive や SQ のシステムへのデジタルスプリットとしても応用できます。

ME パーソナルモニタリングシステムと互換性を持つので、ME-1 および ME-500 を使用して独自にモニターミックスをコントロールできます。

デジタルオーディオネットワークカードを使用して、gigaACE、Dante、MADI、Waves SoundGrid などのプロトコル経由で、他のデジタルオーディオシステムと統合できます。

特徴：

- **XCVI** FPGA コア
- 96kHz サンプリングレート、96bit アキュムレーター
- 超低レイテンシー (0.7ms)
- 64 チャンネルフルプロセッシングインプット (filter, gate, PEQ, compressor, inserts)
- 42 のコンフィギュラブルな Mix アウトプット
- **DEEP** プロセッシング対応 – チャンネルプラグインに組み込み可能
- 12 ラックFX、専用FXリターン付き
- 16 DCA
- ツイン 15.6 インチ フルHD タッチスクリーン (静電容量式)
- フルアサインブルレイアウト
- 144 フェーダーストリップ (24 フェーダー、6 レイヤー)、選択可能な専用マスターセクション
- リモートI/OエキスパンダーおよびMEパーソナルモニタリングシステム接続用 Slink ポート
- 12 x アナログXLR入力、12 x アナログXLR出力
- 1 x ステレオ AES In、2 x ステレオ AES Out
- 2 x I/Oポート、128x128@96kHz 動作可能
- ジェスチャーコントロール – ピンチ、スワイプ、ドラッグ&ドロップ
- ユーザー設定可能なロータリーコントロール
- 24 アサインブル ソフトキー
- マルチポイントピーク検出の包括的なメーターリング
- USBステレオ録音および再生
- BNC ワードクロック端子

Avantis の詳細については、Allen&Heath のWebサイトをご参照ください。

2. 接続と電源オン

2.1 電源オン

電源スイッチがオフの位置にあることを確認します。付属のIEC電源コードを本体に差し込みます。必要に応じて、T20トルクスドライバーを使用してネジをはずして、プラスチック製クリップで電源コードを固定します。電源スイッチで電源を投入します。

2.2 タッチフェーダー キャリブレーション

フェーダーのタッチセンシティビティをキャリブレートするには、**Utility / Utility / Calibration** 画面で **Calibrate Fader Touch** を選択し、**Left Bank** と **All** を選択した後、画面上の指示に従います。完了したら、**Right Bank** に対して同じ操作を実行します。

2.3 Show テンプレートのリコール

Avantis は、フルコンフィギュラブルなオーディオアーキテクチャーと、コントロールレイアウト、およびパッチセットを備えています。Show テンプレートがあり、ロードして従来のコンソールタイプを選択することで迅速に、使い慣れたミキサー構成やレイアウトをスタートポイントとして始めることができます。

Show テンプレートのリコールは、**Utility / Memory / Show Manager** 画面で、利用可能な任意のShowテンプレートを選択し、**Recall** をタッチして確定します。

- ① Showをリコールすると、バス構成、コントロールレイアウト、現在のパラメーター、シーン、ライブラリープリセットを含むすべてのシステム設定が上書きされます。現在の設定を保存したい場合は、リコール前にユーザーShowとしてストアします。
- ① 詳細については、www.allen-heath.com からダウンロードできるAvantis ファームウェアリファレンスガイドをご参照ください。

2.4 エキスパンダー接続

リモートエキスパンダーと Slink ポート間は、最大 100m の長さでツアーリンググレード(またはそれ以上の仕様)の CAT5e ケーブルで接続します。

- ① ケーブルの要件、推奨事項、および注文可能な CAT5 ケーブルのリストについては、www.allen-heath.com をご参照ください。

リモートエキスパンダーのスイッチを入れます。リンクが確立されると、Slink ポートの Lnk/Err インジケーターが一定間隔で点滅します。通信エラーが検出されると、赤色のエラーインジケーターが点灯するので、ケーブルが正しいタイプであるか、正しく接続されているか、損傷していないか、を確認します。

Avantis Slink ポートとリモートエキスパンダーの互換性は以下です:

リモートエキスパンダー	サンプリングレート	プロトコル
GX4816	96kHz	GX
DX32, DX168, DX164-W, DX012, DX Hub	96kHz	DX
AR2412, AR84	48kHz	dSnake
AB168	48kHz	dSnake

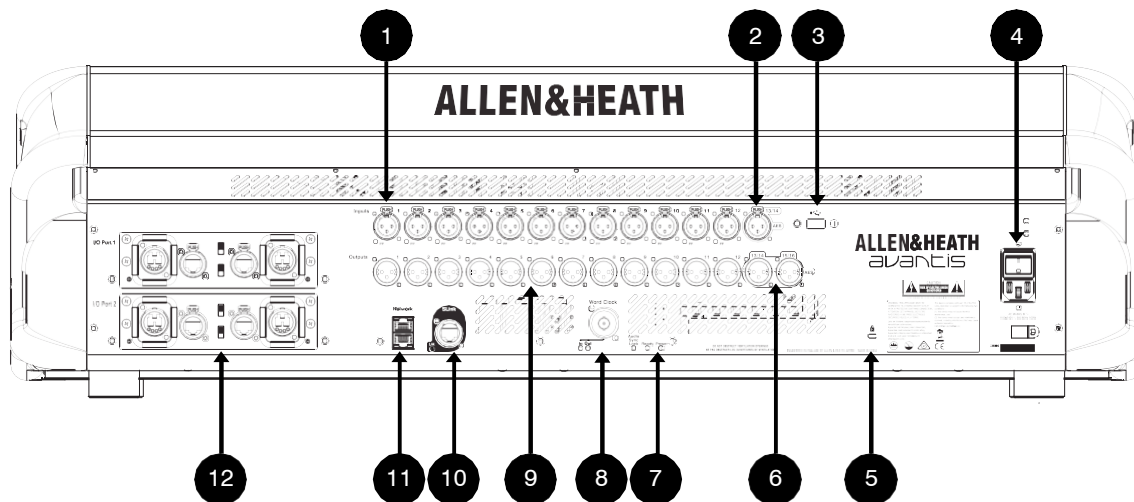
- ① I/O エキスパンダーの製品の詳細については以下をご参照ください。
www.allen-heath.com/everything-io/

2.5 電源オフ

システムの電源は正しく切る必要があります。**Utility / Utility / System** 画面で、Power Down ボタンをタッチします。動作を確認した後、ミキサーとエキスパンダーの電源スイッチをオフします。

- ① システムの電源が正しく切れなかった場合、直近の変更した内容が失われる可能性があります。
- ① システムの電源が正しく切られなかった場合は、次にシステムの電源を入れたときに「Not Shut Down Correctly」画面が表示されます。

3. リアパネル



1. Mic/Line 入力

12 のバランスまたはアンバランス対応のマイクおよびラインレベル信号用入力で、リコール可能プリアンプ付きです。ゲイン、パッド、および48V はプリアンプ内でデジタルコントロールされます。ソケットで内部または外部から供給されるファンタム電源電圧が検出されると、PP インジケーターが点灯します。

I/O または Processing/Preamp 画面で、任意のソケットを任意のインプットチャンネルにパッチできます。

2. Digital 入力

ステレオ AES3 入力 (サンプリングレート: 32kHz~192kHz) です。サンプルレートコンバーターはバイパス可能です。

I/O または Processing/Preamp 画面で、任意のインプットチャンネルにパッチできます。

3. USB 2.0 ソケット

互換性を持つ USB デバイスを挿入して、Show ファイルの保存とリコール、ファームウェアの更新、オーディオの録音と再生が可能です。

4. 電源

電源用 IEC ソケット、ヒューズ、On/Off ロッカースイッチです。電源ケーブルを固定するために、プラスチック製の Pクリップケーブルクランプが付属しています。ケーブルはスロットに入れるか、スター型 T20 トルクスドライバーを使用してケーブルの周りにクランプを取り付け、所定の位置にロックします。

❗ パネルに印刷されている安全のための警告に注意してください。

5. ケンジントンロック

標準的なケンジントンロック (盗難防止セキュリティデバイス) を取り付けるためのスロット。

6. Digital 出力

ステレオ AES3 出力 (44.1kHz、48kHz、96kHz、切替え可能) です。I/O 画面で、任意の信号をソケットにパッチできます。

7. ステータス インジケーター

Power ON インジケーターがあります。電源投入後、出力ソケットがオーディオを出力する準備が完了すると、Ready インジケーターが点灯します。有効なクロックソースが存在する場合、Audio Sync Locked インジケーターが点灯します。

8. Word Clock I/O

外部オーディオクロックに同期したり、他のデバイスにクロックを供給したりするための BNC コネクタです。In および Out の LED は現在のモードを示します。

9. Line 出力

12 のラインレベル、バランスXLR出力です。ノミナルレベルは +4dBu です。出力は、電源オンまたはオフ時のノイズを防ぐためにリレー保護されています。I/O 画面で、任意の出力ソケットに信号をパッチできます。

10. SLink

リモートI/OエクスパンダーやMEパーソナルモニタリングシステムへの接続用です。対応するデバイスの詳細については、本ドキュメントの「エクスパンダー接続」セクションをご参照ください。

11. ネットワーク

2 つの RJ45 ギガビットイーサネットポートです。ノートパソコンまたはワイヤレスルーターを接続して、Avantis Editor または iOS アプリを使用します。ネットワーク上のすべてのデバイスには、適切なIPアドレス設定が必要です。

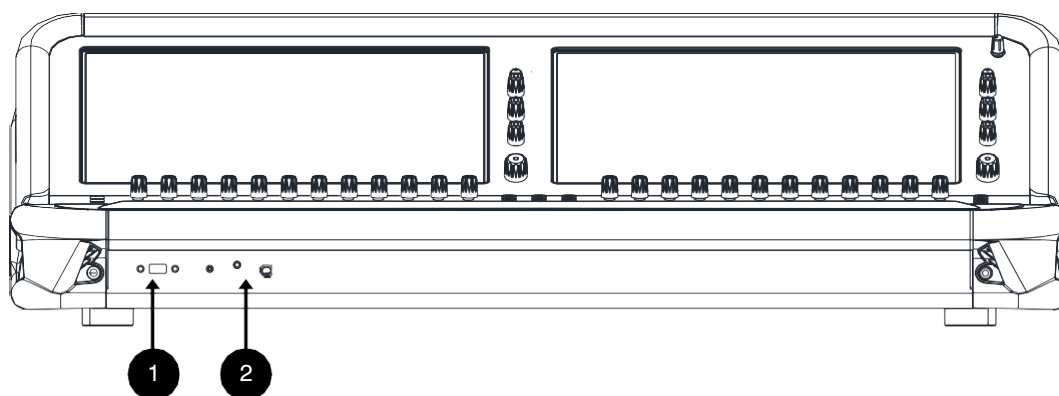
デフォルト設定:

DHCP Enabled:	Off
IP Address:	192.168.1.80
Subnet Mask:	255.255.255.0
Gateway:	192.168.1.254

12. I/O ポート

2 つのオーディオインターフェイスポートは、128x128 チャンネルに対応しています。システム拡張、マイクのデジタルスプリット、録音用、またはオーディオネットワーキング用、など用途に応じてオプションカードを取り付けます。利用可能なオプションカードのリストについては、www.allen-heath.com をご参照ください。I/O 画面で、I/Oポートに信号をパッチします。

4. フロントパネル



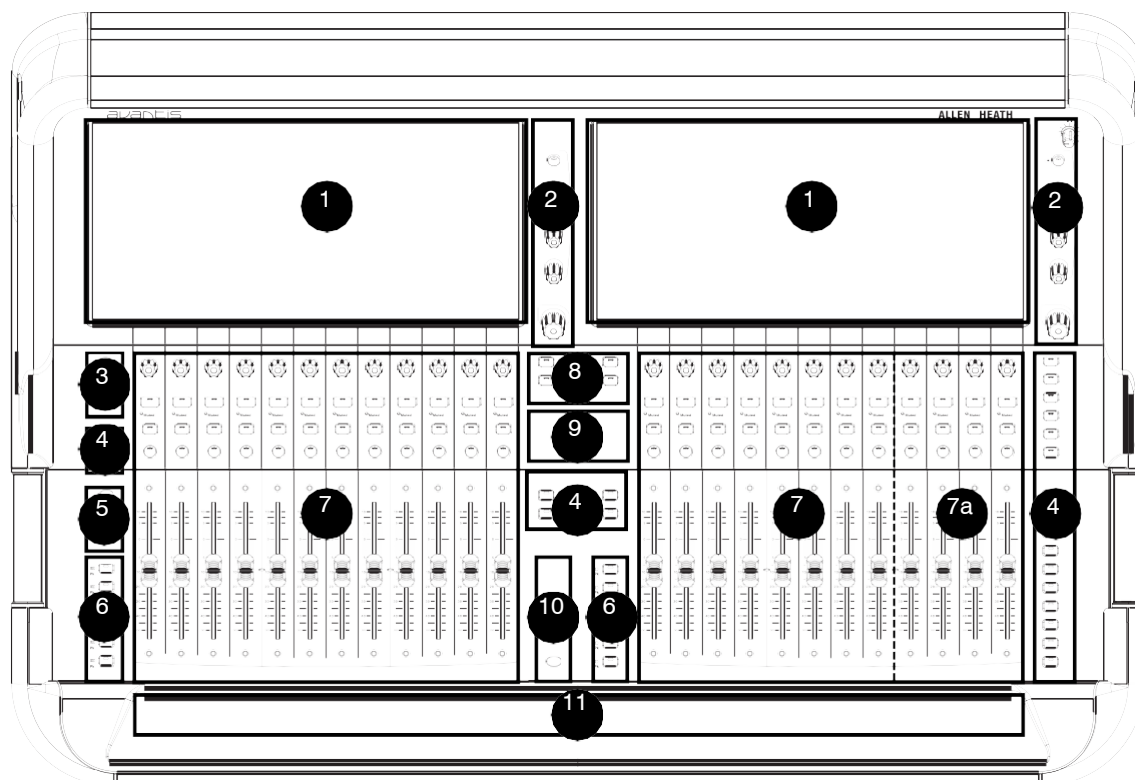
1. USB 3.0 ソケット

互換性を持つ USB デバイスを挿入して、Show ファイルの保存とリコール、ファームウェアの更新、オーディオの録音と再生をします。

2. ヘッドフォン ソケット

標準の 1/4 インチおよび 1/8 インチのヘッドフォンジャックソケット。アームレストの下にあります。

5. トップパネル



1. タッチスクリーン

15.6 インチの静電容量式タッチスクリーン。詳細についてはスクリーンのセクションをご参照ください。

2. スクリーンコントロール

パラメーターをアサイン可能なコントロール。詳細については、スクリーンのセクションをご参照ください。

3. Pre / Safes / Freeze

チャンネルステータスの切り替え：

- **Pre/Post** – **Pre** を押したまま、チャンネルの **Name Block** をタッチして、特定ミックスへの出力をプリフェードとポストフェードの間で切り替えます。マスターミックスの **Name Block** をタッチして、すべてのチャンネルのプリ/ポストを切り替えます。選択したチャンネルまたはミックスのアサインとプリ/ポストの設定は、**Routing** 画面でも設定できます。
- **Safes** – **Safes** を押したまま **Name Block** をタッチして、シーンのリコールからそのチャンネルをセーブします。選択したパラメーターのみセーブしたい場合は、**Scenes / Global Safes** 画面で設定します。
- **Freeze** – **Freeze** を押したまま **Name Block** をタッチすると、すべてのレイヤーでチャンネルがロックされます。

4. ソフトキー

24 のユーザーアサイン可能なキーです。**Mixer / Control / SoftKeys** 画面で機能をアサインします。

5. Copy / Paste / Reset

- **Copy** – **Copy** を押したまま、次を押します：
 - **チャンネル Name Block**: そのチャンネルのプロセッシング全体をコピーします。
 - 画面内の強調表示された **Processing Block**: 該当するプロセッシングの設定をコピーします。
 - ストリップの **Mix** キー: 該当する **Mix** のアサインとセンドレベルをコピーします。
- **Paste** – **Paste** を押したまま、**Name Block**、**Mix** キー、または画面内の強調表示されたエリアをタッチして、コピーした内容をペーストします。
- **Reset** – **Reset** を押したまま、**Name Block**、**Mix** キー、または画面内の強調表示されたエリアをタッチして、関連するパラメーターを工場出荷時のデフォルトにリセットします。**Reset** を押したままフェーダー調整することで **0dB** に、または下げることでオフに、すばやく設定できます。

6. レイヤー

フェーダーストリップの6つのレイヤー間を移動します(バンクごと)。赤いPk(ピーク)インジケーターは、そのレイヤーのチャンネルがクリッピングの3dB以内のときに点灯し、レイヤー全体にわたり監視できます。**Mixer / Control / Surface Prefs** 画面でバンクをリンクできます。—リンクがアクティブな場合は、レイヤーキーは両方のバンクで連動します。

7. フェーダーバンク

12チャンネルフェーダーのバンクが2つあり、インプットチャンネル、FXリターン、ミックスマスター、DCA、ウェッジ/IEMモニター、MIDIなどのコントロール操作が可能です。詳細については、フェーダーストリップのセクションをお読みください。専用のマスターセクション(図7a)が有効時には、4つのチャンネルストリップは固定して使用できます。ストリップレイアウトはユーザーアサイン可能で、シーンとして保存されます。**Mixer / Control / Strip Assign** 画面で、ストリップレイアウトを編集と、マスターセクションの有効化ができます。

8. ストリップロータリー モード

フェーダーストリップロータリーエンコーダーの機能を選択します。フェーダーストリップのロータリーは、プリアンプのゲイン、パン、アクティブ Mix へのセンド、および3つまでの機能をアサイン可能です。**Mixer / Control / Preferences** 画面でアサインします。ロータリーのLEDの色は現在アクティブな機能と一致します。ゲインは赤、パンは黄色。センドの場合はアクティブMixの色に従います。センド機能時は、ロータリーはアクティブ Mix へのセンドレベルを、フェーダーはメインミックスのチャンネルレベルをコントロールします(「sends on faders」は一時的に無効になります)

9. Assign

Assign キーを押しながらストリップの **Mix** キーを押して、ルーティングアサインのオンとオフを切り替えます。詳細については、本ガイドの後半をご参照ください。

10. GEQ on Faders

GEQ キーを押したまま、ミックスチャンネルの **Name Block** をタッチして、フェーダーにGEQを展開表示します。周波数の値は **Name Block** に表示され、メーターには各周波数帯域のRTAとピーク帯域が表示されます。アクティブな状態で **GEQ** キーをもう一度タッチすると、高域と低域が切り替わります。このモードでは、Mixのマスターフェーダーが右側のストリップになります。

11. アームレスト ルミネーション

Setup / Control / Dimmer の画面で照明を設定します。

5.1 フェーダーストリップ



Strip Rotaries – ストリップロータリーモードキー(上述)を使用して機能を選択します。ロータリーは、プリアンプのゲイン/トリム、パン、アクティブ Mixへのセンド、およびユーザーアサインされた3つの機能をコントロールします。ロータリー LED の色は、アクティブな機能と一致します。ゲインは赤、パンは黄色。センドモードの場合はアクティブなMixの色に従います。値は **Name Block** 画面に表示されます。



Mute – チャンネル信号をオフにします。メインMix、プリフェードとポストフェードのセンドに影響します。信号ミュート時、スイッチが点灯します。

○ Muted

Muted – チャンネルが DCA または Mute Group によってミュートされたときに点灯します。



Mix – チャンネルまたはマスターのセンドレベルとアサインをフェーダーストリップに配置します(ロータリーがセンドモードの場合はストリップロータリーに配置)。

① 現在アクティブな Mix は、画面の右上コーナーに表示されます。現在アクティブな **Mix** キーを押すと、メインミックスに戻ります。



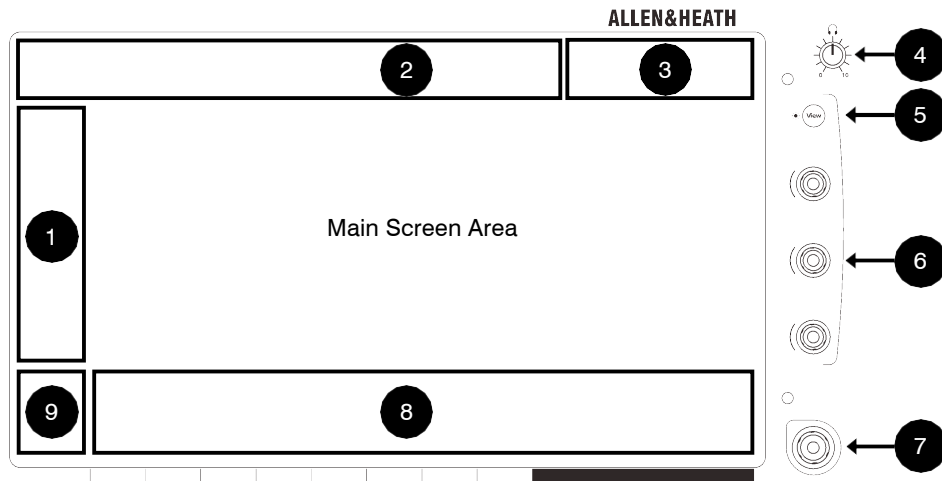
PAFL – チャンネル信号をPFL(プリフェードリッスン)またはAFL(アフターフェードリッスン)で、ヘッドフォンとモニターシステムに送ります。
Setup / Audio / PAFL 画面でPAFLの設定をします。

5.2 スクリーン

Avantis は 2 画面を備え、両方に、チャンネル処理、バンクのオーバービュー、システムのセットアップ&ステータス、メモリ管理メニューなどが表示されます。

各タッチスクリーンを使用して、Touch&Turn ロータリーコントロールと、ユーザー設定可能な3つのソフトロータリーとともに、迅速かつ容易なパラメーター操作を可能にします。

両方のスクリーンは独立して動作するため、たとえば、2 つの別々のチャンネル処理を同時に表示したり、一方の画面ではチャンネル処理を表示し、もう一方の画面では IO パッチを表示したりもできます。



1. スクリーンモード

スクリーンモードを選択します：

- **Bank** – フェーダーの Bank と Layer にアサインされているすべてのチャンネルの概要です。Bank ビューでは、**Copy**、**Paste**、**Reset**、**Freeze**、**Listen** キーを使えます。Bank ビューで、処理ブロックにタッチすると（たとえば、PEQ、ゲート、またはコンプ）関連する **Processing** ページが開きます。
- **Processing** – 選択したチャンネルのプロセッシングにアクセスします。
- **Routing** – 選択したチャンネルのルーティングとアサインにアクセスします。
- **I/O** – クロスポイントをタッチしてシステムの入力と出力をパッチします。
- **Ganging** – 選択したパラメーターを複数のチャンネル間でリンク可能な、ギャンググループを最大16個作成できます。
- **Meters** – Input、FX、Mix、のメーター、RTAスペクトログラム、そしてユーザーがカスタマイズ可能な4つのメータービューへアクセスします。
- **FX** – 12 個の RackFX ユニットを設定します。
- **Scenes** – Scene Manager、Global Safe、その他 Scene 関連ツールへアクセスします。
- **Setup** – ストリップレイアウト、ミキサーバス構成、ソフトキー設定、ステレオ入力設定、ネットワーク設定、オーディオ設定、ユーザープロフィール、サーフェス設定、照明設定などへアクセスします。
- **Utility** – Show Manager、Library Manager、ファームウェアアップデート、システムダイアグ、Fader や Screen のキャリブレーション、MIDI、などへアクセスします。

2. Menu タブ

選択したスクリーンモードのメニューオプション。

3. ステータス バー

アイコンは、特定の操作モードがアクティブな場合（Virtual Soundcheck、Solo In Place、Scene Update Auto Tracking など）、またはシステムエラーが記録された場合に表示されます。

4. ヘッドフォン ボリューム

ヘッドフォン出力（右側にあります）のボリュームコントロール。

5. View

ソフトロータリーの機能確認ビューに切り替えます。

6. ソフトロータリー

ユーザーがアサインしたパラメーターをコントロールするための3つのソフトロータリー。

7. Touch & Turn コントロール

メインスクリーンのパラメーターまたは設定のエリアをタッチし、ロータリーコントロールで値を調整します。選択されているパラメーターはオレンジ色で強調表示されます。

8. Name Block

ネーム、カラー、チャンネルタイプ、ナンバー、メーター、その他チャンネルパラメーターを表示します。

チャンネル **Name Block** をタッチして、Processing 画面とRouting 画面で使用するチャンネルを選択します。選択すると、チャンネルストリップはグリーンになります。

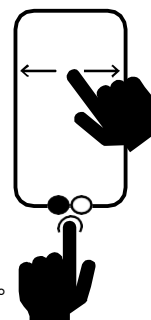
各バンクで 1 つのチャンネルを選択できます。選択されているチャンネルは、画面の左上コーナーに表示されます。



9. スワイプ メニュー

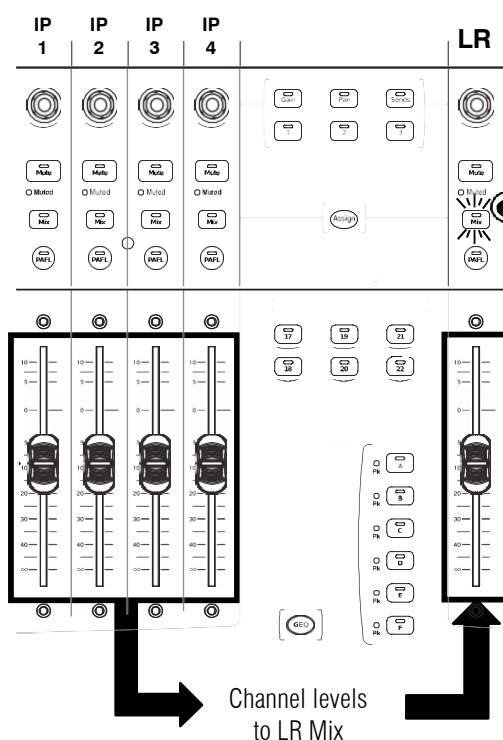
PAFL メーターやコンテキストオプションを表示するマルチページメニューです。メニューをスワイプするか、円形のページインジケーターをタッチして、ページ間をスクロールします。

- ☐ **Listen** – **Listen** を押したまま、画面の強調表示されたエリアをタッチして、選択したチャンネルの信号経路上の特定ポイントを聴きます。
- ☐ **Options** – **Options** を押したまま、画面の強調表示されたエリアをタッチして設定操作をします。
- ☐ **Name / dB / IO / Channel** – タッチして Name Block モードを切り替えて、ユーザー定義チャンネル Name、dB 単位のフェーダー位置、チャンネル番号、パッチされたソースや行き先の I/O ソケットを表示します。
- ☐ **Help** – タッチしてアクティブな画面のコンテキストヘルプを表示します。
- ☐ **PAFL Meter**



6. Mix ベーシック

6.1 メインミックス 操作

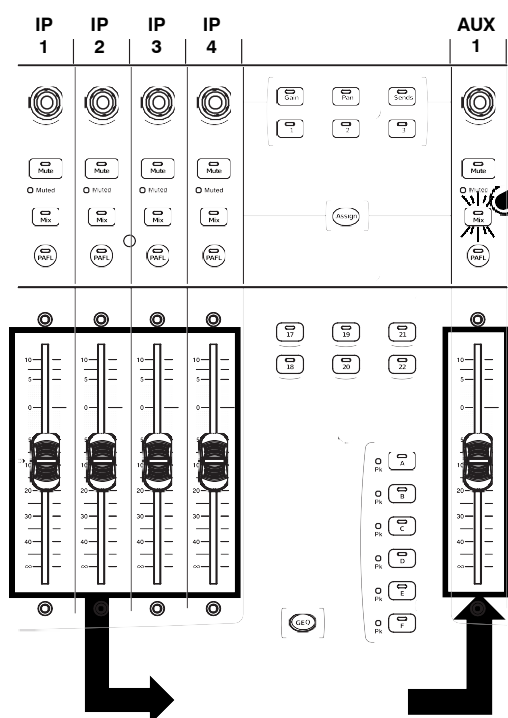


メインミックス (LR) マスターストリップの **Mix** キーを押します。

デフォルトの Mix モードです：

インプットストリップはチャンネルフェーダーになります。
マスターストリップはマスター Mix フェーダーになります。

6.2 センド操作 – マスターミックスモード



Channel Sends
to AUX1

ミックスマスターstriップの Mix キー (AUX 1) を押します。

同じ方法で Aux および FX センドを操作します。

インプットstriップは、アクティブな Mix へのセンドレベルになります。

マスターstriップは、マスター Mix フェーダーになります。

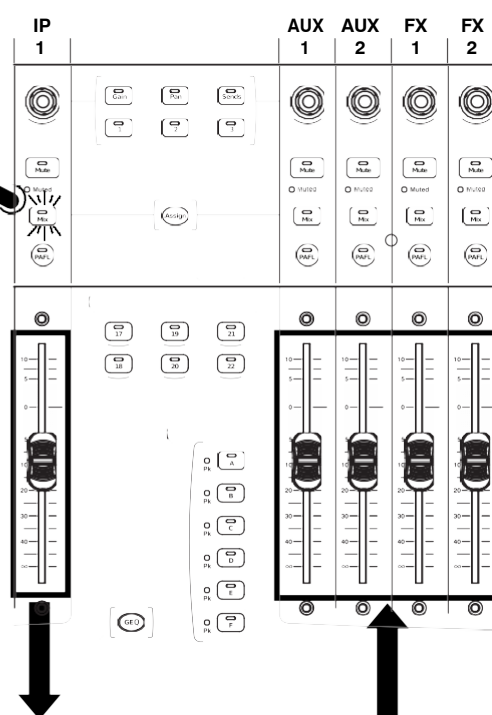
6.3 センド操作 – チャンネルミックスモード

インプットチャンネルstriップ (IP 1) の Mix キーを押します。

同じ方法で Aux および FXセンドを操作します。

インプットstriップはチャンネルフェーダーのままです。

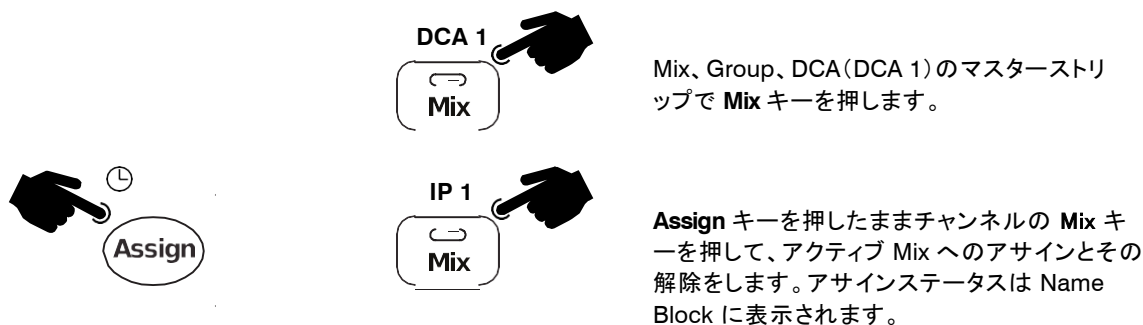
マスターstriップは、インプットチャンネルからのセンドレベルになります。



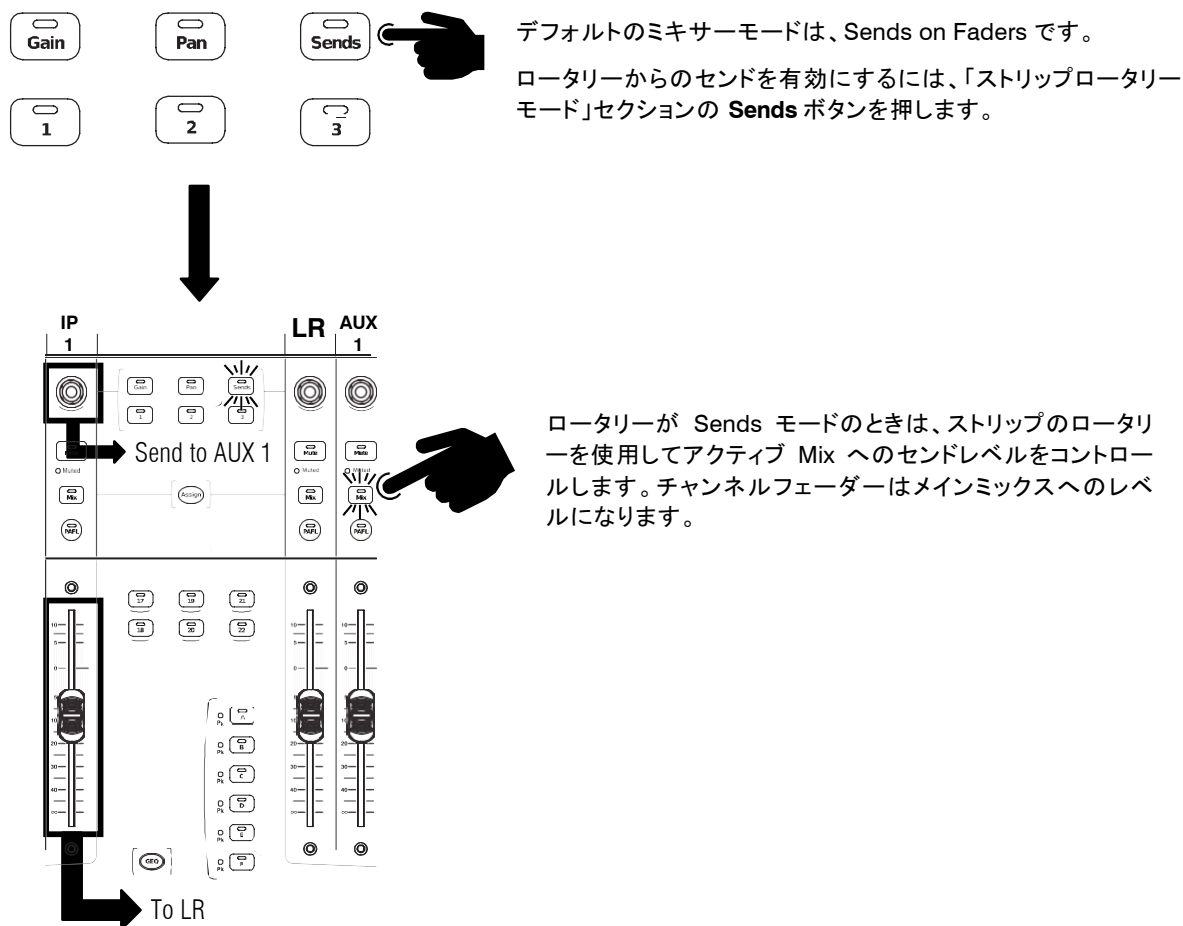
To LR

Send levels from IP 1

6.4 チャンネルアサイン – Mix、Group、DCA



6.5 センド操作の切替え – フェーダー/ロータリー



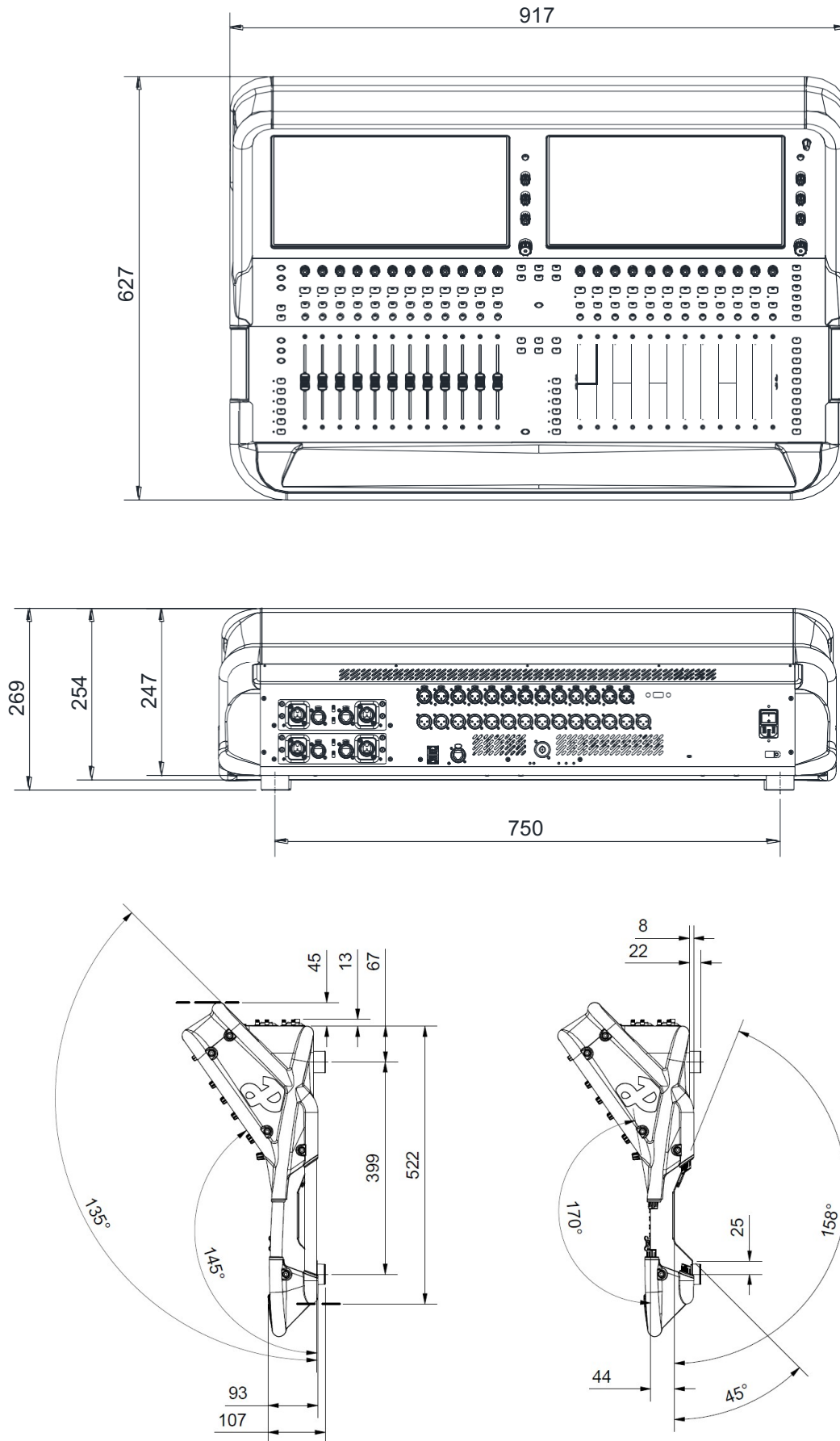
6.6 フェーダー プリ/ポスト センド の設定

Pre キーを押しながら、チャンネルの **Name Block** をタッチして、各ソースのフェーダーからのプリまたはポストを切り替えます。Pre/Post ステータスは、Name Block の下部に表示されます。

Pre キーを押しながら Mix マスター **Name Block** をタッチすると、すべてのアサインの on / off、または、フェーダーの pre / post をすばやく変更できます。



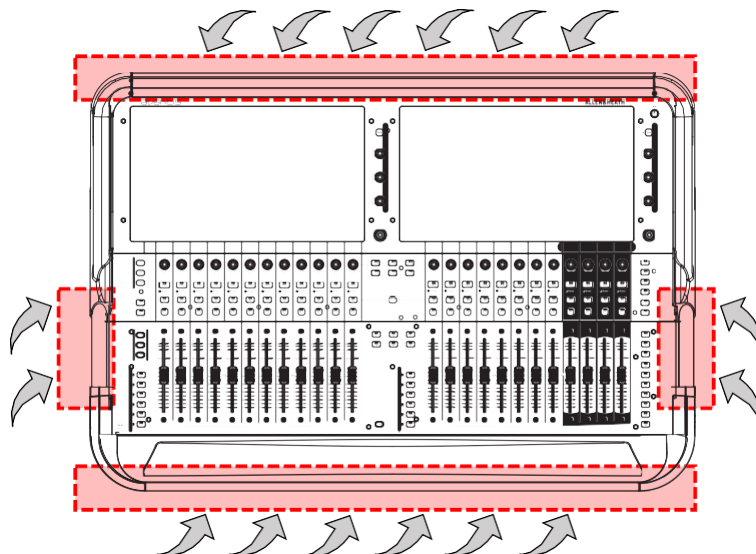
7. 寸法图



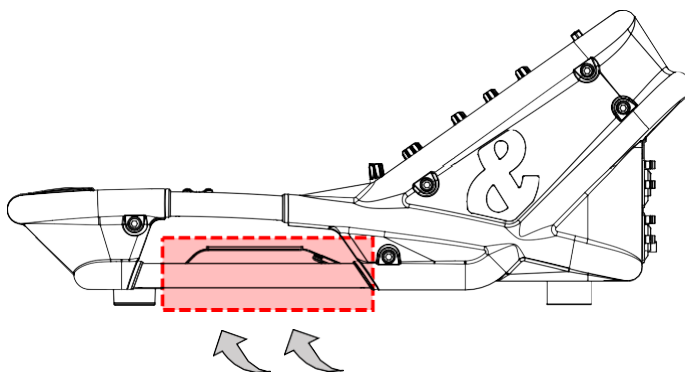
8. フライトケース 情報

ミキサーの4つのゴム足を取り外さないでください。

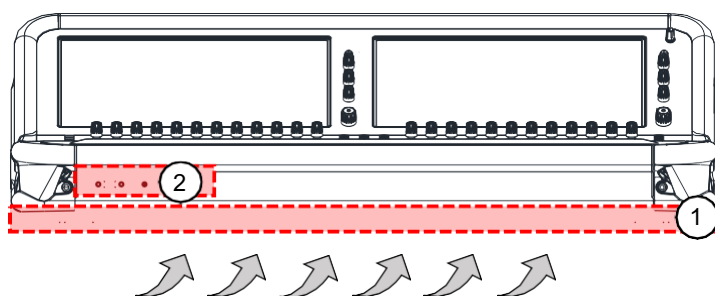
ミキサーの前面、背面、側面に換気(↗)と接続のための十分なスペースを確保します。



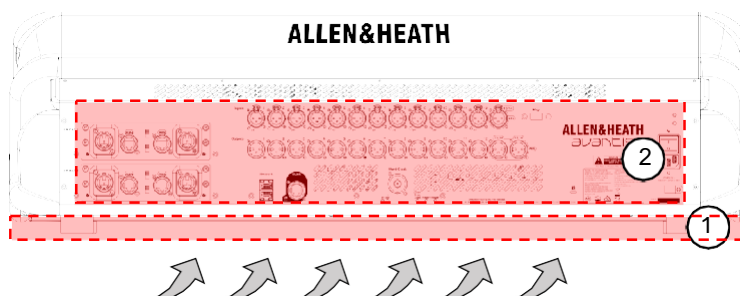
ミキサー側面の指示されたエリアに換気(↗)のための十分なスペースを確保します。



(1)換気(↗)および(2)ミキサーの前面にあるヘッドフォン/ USB接続用に十分なスペースを確保します。



(1)換気(↗)および(2)ミキサーの背面のオーディオ/電源接続用に十分なスペースを確保します。



9. 仕様

入力		システム	
マイク/ライン入力	XLRバランス, +48V ファンタム電源付	測定条件: XLRイン→XLRアウト、20-20kHz、 ゲイン最小、PAD無	
マイク/ライン プリアンプ	リコーラブル	ダイナミックレンジ	112d
入力感度	-60 ~ +15dBu	システム SN	-
アナログゲイン	+5 ~ +60dB, 1dB ステップ	98dB	
Pad	-20dB (アクティブ方式)	周波数特性	20Hz - 30kHz (+0/-0.8dB)
最大入力レベル	+30dBu (PAD 挿入時)	THD+N (analogue in→ out)	0.0015% @ +16dBu output, 1kHz 0dB gain
入力インピーダンス	4kΩ以上 (PAD無), 10kΩ以上 (PAD有)	ヘッドルーム	+18dB
入力換算ノイズ	-127dB (150Ω ソース)	内部動作レベル	0dBu
ファンタム電源 インジケータ	各端子ごと、+24Vで起動 (内部ま たは外部のファンタム電源センシン グ機能付)	dBFS アライメント	+18dBu = 0dBFS (XLR +22dBu 出力)
デジタル入力	AES3 2Ch XLR、2.5Vppバランス 110Ω終端 SRCレンジ 24ビット、32k- 192kHz、 バイパスオプション付き	メーターキャリブレーション	0dB meter = -18dBFS (XLR +4dBu 出力)
出力		メーターピーク表示	-3dBFS (XLR +19dBu 出力)
アナログXLR出力	XLRバランス、リレー保護付き	サンプリング周波数	96kHz
出力インピーダンス	75Ω以下	ADC	32-bit
公称出力	+4dBu = 0dB (メーター表示)	DAC	32-bit
最大出力レベル	+22dBu	動作温度範囲	0°C - 40°C
残留出力ノイズ	-95dBu (ミュート時, 22-22kHz) -90dBu (ミュート時, 0-80kHz)	電源	100-240V AC, 50-60Hz, 150W max
デジタル出力	AES3 2Ch XLR、2.5Vpp バランス110Ω終端 96kHzサンプリングレート、 48kHz、44.1kHzに切り替え可能	USB オーディオ再生	Mono/stereo .WAV files, 16/24bit, 44.1/48/96kHz
		USB オーディオ録音	Stereo .WAV files, 24bit 96kHz

寸法・質量

	本体		梱包時
幅 x 奥行 x 高	917 x 627 x 269 mm 36.1" x 24.7" x 10.6"	幅 x 奥行 x 高	1100 x 850 x 425 mm 43.3" x 33.5" x 16.7"
質量	26kg 57.4lbs	質量	34kg 75lbs